

研究成果



新しい牧草・飼料作物の品種

(メドウフェスク「コスモポリタン」、チモシー「SBT0002」、とうもろこし「エリオット」)

飼料環境グループ 氏名 中村 直樹

(E-mail: nakamura-naoki@hro.or.jp)

今年、新たに北海道優良品種に認定された牧草、飼料用とうもろこし品種をご紹介します。なお、今回紹介するとうもろこし品種は、早晩性からいって根釧地域は普及対象ではありませんが、条件良好地では使うことができる程度の熟期ですので、取り上げました。

1. メドウフェスク

1) メドウフェスクの紹介

メドウフェスクは、土壌凍結地帯の根釧地域でも栽培可能なイネ科の牧草です。季節生産性が良好（夏以降も草量が落ちにくい）や再生力が高いため、主に放牧用草種として用いられています。

2) 「コスモポリタン」の特徴

「コスモポリタン」は、雪印種苗が海外から導入した放牧専用品種です。

早晩性は早生に属します。放牧利用で年間合計乾物収量が既存の優良品種「ハルサカエ」よりも多く、越冬性が「ハルサカエ」より優れるのが特徴です。

(1) 収量性

乾物収量は、「ハルサカエ」よりも多く、いずれの季節においても「ハルサカエ」を上回ります(図1)。

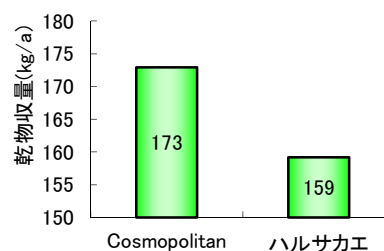


図1. 「コスモポリタン」の収量性

(左の棒がこの品種、右は対照品種。3ヶ年の合計乾物収量、根釧農試、北見農試、畜試)

(2) 越冬性

雪腐大粒菌核着生程度は、「ハルサカエ」と同程度ですが、早春の草勢に優れ、越冬性に優れるといえます。

(3) 耐病性

「かさ枯れ病」への罹病程度は、「ハルサカエ」よりも低く、網斑病および葉腐病の罹病程度は、「ハルサカエ」と同程度です。総じて、耐病性に問題はありません。

2. チモシー

1) チモシーの紹介

チモシーは、越冬性に優れたイネ科牧草です。再生が不良で競合に弱いなどの欠点がありますが、嗜好性に優れています。北海道内ではイネ科牧草種子流通量の約8割を占め、採草に利用されています。

2) 「SBT0002」の特徴

「SBT0002」は、雪印種苗株式会社が育成した採草専用品種です。

早晚性は、既存の優良品種「ホライズン」と同程度で、早生に属します。採草利用による乾物収量は、各番草、年間合計ともに「ホライズン」よりも多く、混播適性がやや良好な品種です。

(1) 収量性

乾物収量は、「ホライズン」よりも多く、いずれの番草においても「ホライズン」を上回ります(図2)。

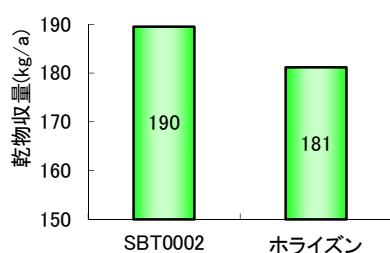


図2. 「SBT0002」の収量

(2カ年の合計乾物収量、根釧農試、北見農試、畜試)

(2) 越冬性

雪腐大粒菌核着生程度は、「ホライズン」よりもやや小さい傾向です。早春の草勢および越冬性は、「ホライズン」と同程度です。

(3) 混播適性

アカクローバとの混播試験の結果、競合力は、「ホライズン」よりやや優れます。

(4) 耐倒伏性

「ホライズン」と同程度です。

3. とうもろこし

1) とうもろこしの紹介

根釧地域は、夏期冷涼なので、早生の品種が適しています。さらに、夏場に湿度が高いことが多いため、病害が発生しやすくなります。各病害への抵抗性は、重要な形質です。

2) 「エリオット」の特徴

「エリオット」は、雪印種苗が海外から導入した品種です。

早晚性は早生の中に属します。同熟期の標準品種「チベリウス」と比べ収量性はほぼ同程度ですが、すす紋病抵抗性に優れています(図3)。

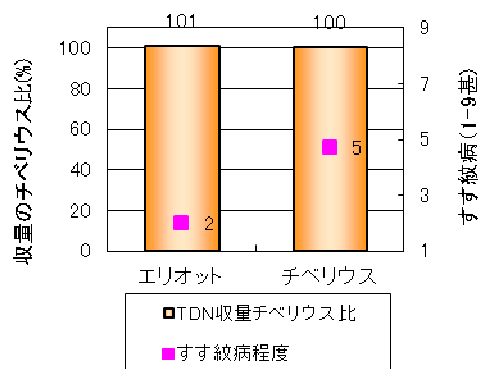


図3. 「エリオット」のTDN収量性とすす紋病程度(3カ年の平均、根釧農試、北見農試、畜試)

3. 栽培上の留意点

1) メドウフェスク「コスモポリタン」

普及対象地域は道東地域とし、放牧用として利用してください。

2) チモシー「SBT0002」

普及対象地域は全道一円で、採草用として利用してください。種子は平成31年頃から流通予定です。

3) 「エリオット」

根釧地域で栽培する場合には、気象条件良好地としてください。